

第25回地域福祉実践研究セミナーin 沖縄・うらそえ

ワークショップ 4 報告

あなたの中のバリアは何ですか？

～多職種連携による浦添型地域包括ケアの推進に向けて～

- 実践報告者** : 名嘉健二（浦添市地域包括支援センターみなとん管理者、主任介護支援専門員）
棚原成秋（浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー連携コーディネーター）
仲嶺茜（浦添市社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー）
田中宏樹（バリアフリーオリンピック実行委員会）
与那覇涼（うらそえ介護福祉士会）
福本泰三（医療介護ネットワーク2025、浦添総合病院院長）
岸本新（浦添市前田ユブシが丘児童センター、沖縄ハンズオンNPO）
- アドバイザー** : 宮城恵子（社会福祉法人仁愛会看護部顧問、名嘉村クリニック教育担当）
神山裕美（大正大学人間学部社会福祉学科 教授）
- 協力者** : 浦添市主任介護支援専門員の方々
- 地域担当者** : 浦添市医師会事務局長：平良睦男
浦添総合病院在宅総合センター長：古謝早苗

第25回 地域福祉実践研究セミナーin 沖縄・うらそえ
(分科会4)
あなたの中のバリアは何ですか？
～多職種連携による
浦添型地域包括ケアの推進に向けて～
令和元年8月30日(金) 浦添市でだこホール・市民交流室

参加者の状況

▶ 会場

浦添市てだこホール・市民交流室

- ▶ 参加者数と内訳 35名
- | | | | |
|-----------|-----|-----|----|
| 社協 | 13名 | 医師会 | 6名 |
| 行政 | 5名 | 学生 | 4名 |
| 福祉協力員（住民） | 3名 | | |
| 病院 | 2名 | 大学 | 2名 |

浦添市てだこホール
市民交流室





目的

- ▶ 1. 沖縄の先人たちが築いてきた「ゆいまーる（助け合い）精神」を現代風にリノベーションし、多職種連携の視点から新しい地域の形を考える。
- ▶ 2. 各分野の報告をもとに、「ワールドカフェ」の手法で、下記2点を考察し参加者の課題を共有する。
 - ①連携における課題（バリア）は何か？
 - ②医療と介護、福祉の専門職同志のネットワークをどう構築するか？
- ▶ 3. 明日からの地域づくり構築に向けた仲間づくりと、元気を持ち帰る。

展 開 方 法

- 10:00 趣旨説明、オリエンテーション
- 10:10 実践報告3名：各7分（名嘉健二・棚原成秋・仲嶺茜）
- 10:30 質疑応答
- 10:40 ワールドカフェ（20分×3回）①実践事例報告からの意見交換
②医療と介護、福祉の専門職連携の課題
- 11:50 テーブルマスターによる発表とコメント（4グループ）
- 12:10 昼休憩
- 13:10 実践報告4名：各7分（田中宏樹・与那覇涼・福本泰三・岸本新）
- 13:40 質疑応答
- 13:50 ワールドカフェ（20分×4回）①実践事例報告からの意見交換
②医療と介護・福祉の専門職ネットワークをどう構築するか？
- 15:20 休憩
- 15:30 テーブルマスターによる発表とコメント（4グループ）
- 15:50 総括（宮城恵子・神山裕美）
- 16:10 終了





結

果①

専門職連携における課題（バリア）は何か？

時間

相互理解不足

個人情報
の壁

肩書

「先生」はこわい

一対一関係

個別事例は担当者レベル
になりやすく、人がかわ
るとつながらない

対象者への
思いを分か
り合えない

専門職

価値観の差

言葉の違い

地域包括ケアも個人・組
織により意味が違う

病院内と地域

連携者・優先順位の差

地域の役割が

伝わりにくい

結

果②

医療・介護・福祉の専門職ネットワークをどう構築するか？ (バリアをなくすために今からできること)

人間対人間
肩書でない

困っている人を助けた
い・治したい人

対象者への愛を
もって想いを伝える

顔の見える
連携は、雰
囲気がいい

連携情報に
利用者ラブ
レター添付

組織レベルで
情報共有と相互理解の
場と仕組みを創る

研修参加と報告
学びを広げ伝える練習

児童期から地域福祉、
介護理解を育てる

ハートに
よってバリ
アが消える



考 察

1. 事例報告からの学び

- ① 介護福祉士が地域連携を進め、介護の価値を積極的に高めていること
- ② 「地域に役立つ病院」「地域で生活する高齢者や児童」の視点を、関係者が共有している
- ③ 「困っている人を助けたい」ゆいまーる（助け合い）精神が、専門職と地域の共通の想いである
- ④ 小学生からの福祉教育や社会資源開発等、地域環境を育てる浦添の地域文化

2. 連携のバリアをなくすために

- ① 地域包括ケアは、病院・地域包括・居宅介護支援事業所・社協・行政・地域・住民からみたときの意味は違う。⇒医療介護総合確保促進法は高齢者対象 VS 地域包括は将来的に全世代対象を想定
- ② 患者、利用者、住民、対象者、顧客、児童生徒、近隣者、家族等、治療・支援・教育する相手の名は、各立場により異なる。
人を見るとき、病気をみるか、生活をみるか、成長発達をみるか、地域をみるとき、
家族や近隣者関係をみるか、地域環境をみるか、社会資源をみるか、公平な制度運用をみるかで違う。
- ③ 各職種に「困っている人を助けたい、治したい」想いは同じなので、そこからつながる。
- ④ 市民から受けるフィードバックを重視する。

結論・今後の展望

- ▶ 今日のワークショップから自分の仕事に生かせること、地域を超えて同じ思いで仕事する方々との出会いから元気をもらった。
- ▶ 高齢者関係の連携先だけでなく、児童や障害、教育や警察や裁判所との連携にも役立つヒントを得ることができた。
- ▶ 肩書や所属、組織の役割に違いやバリアはあるが、「困っている人を助ける、支える、治す」思いは共通である。
- ▶ 連携は専門職のためでなく患者、利用者、住民のため。市民からの評価を大切にする。
- ▶ 人間対人間関係を基本に、組織レベルで人が変わっても引き継いで継続できる、組織レベルの持続可能性も多職種連携に重要である。

港川中学校学区 伊祖自治会の パワフルな
民生委員さんと
事務員さん
が今朝
早くから
準備して
くれました😊

グアバ茶

月桃茶

茶菓子

サーター
マンダギー

クーナー

